

平成 28 年度第 3 回印西市教育振興基本計画生涯学習編検討委員会 会議録

1. 日 時 平成 29 年 3 月 7 日 (火) 午前 9 : 30 ~ 午前 11 : 20 まで
2. 場 所 印西市役所 41 会議室
3. 出席委員 桜井繁光委員 (副委員長)、常光康介委員、
高城國司委員、篠原年枝委員、谷口由美子委員、
對馬由佳委員、櫻井罔郎委員、伊藤明生委員
4. 欠席委員 福留強委員 (委員長)
5. 事務局 生涯学習課 飯島課長、関口、五十嵐
教育長、山崎教育総務課参事
6. 傍聴者 2 名
7. 議 事 (1) 教育振興基本計画第 2 次素案について
(2) その他
8. その他 (1) 今後のスケジュールについて
9. 議事録 要点筆記

議事 (1)

～事務局より (1) に関する資料を説明

委 員：新たな学習指導要領が公表されている。計画はそれを踏襲しているか。

事務局：新たな学習指導要領は主に学校教育に関わるものだが、すでに学校教育編に反映させている。生涯学習編では、リーディング施策の学校支援プロジェクトの中に反映させている。

委 員：「社会教育施設の老朽化に伴い、計画的な改修を行い維持する必要があります。」とあるが、前回意見の公民館の駐車場や交通手段の件はここに含まれるのか。

生涯学習の情報提供として、生涯学習ガイド、冊子、市ホームページ以外の手法はないのか。「社会教育主事や社会教育指導員、家庭教育指導員等を配置し、学習に関する助言などを実施します」とあるが、社会教育指導員が生涯学習の相談やコーディネータに相当するのか。

事務局：社会教育施設は、年度ごとの実施計画などでその都度改善できる方向で対応していく。公民館の駐車場や交通手段についてはここに含まれていない。

委 員：講座などで大勢の参加者がいる場合もある。駐車場のことにも触れておく必要があるのではないか。

副委員長：駐車場については実施計画ごとに検討してもらおうということで了解をいただきたい。生涯学習のホームページにたどり着くためには、何回もクリックしないで済むよう検討してほしい。

事務局：生涯学習ガイドを有効に活用するために、公民館が行っている事業、講師の情報なども盛り込めるように検討したい。また、ホームページでも情報を上げているが、すべての人がホームページを見られる環境ではない。そのため、生涯学習ガイドの

発行部数拡大なども今後検討したい。

また、社会教育指導員がコーディネータをやるということではない。市民アカデミーの卒業生の中などからコーディネータを見つけていきたい。どのような方にコーディネータをやっていたら一番良いかを、これから検討していきたい。

委員：基本方針3の〔ライフステージに応じた「知」・「徳」・「体」の学びイメージ〕の中で幼児期（～5歳）、「児童期・少年期（6～18歳）」、青年期・壮年期（19～64歳）、高齢期（65歳～）とあるが年齢別の根拠を教えてください。

高齢期が65歳以上となっているが、国の会議では高齢者の定義が75歳にしようという議論がある。

事務局：年齢別とは人の一生を分けたものである。高齢者の定義も変わってきているので、年齢の区分については再検討したい。

委員：「家庭教育の推進」は、家庭環境を整えることが大前提になる。最近働くことを優先して、家庭環境を犠牲にしていると思う。印西市では生活の安定、労働力の不足をどのように捉えているのか。

また、高校生の意識も課題だ。都立高校で社会教育委員をやっており、バイト中に商品を壊してしまったら弁償するかを高校生に考えさせ発表する場を設けている。高校生の意見は商品を弁償すると言う。しかし、宝石だったらどうかと質問すると払えないと言う。この結果を考えると、労働や社会と、教育とのギャップがある。そのため、高校生だけを対象とした生涯学習があってもいいと考える。

委員：「家庭教育の推進」については、家族観や夫婦間の問題などもあるため、きれいごとで終わってしまうのではないかと懸念する。

委員：「家庭教育の推進」を市民が読んだ時に、自分たちがいけないのではないかと感じ、自分の責任ではないかと思ってしまうこともある。

委員：学校からも家庭での夫婦仲が悪いと、子どもの生活に影響してくるという話を聞いた。地域のみんなで子どもを育てるといふ、誰もが受け入れやすい表現にしていきたい。

事務局：「家庭教育の推進」について我々も問題意識を持っている。来校が必要な時に学校に来る保護者はいいが、来ない保護者が問題だと考えている。こうした問題に対しては、福祉分野の研究などで考えていくとともに、民生児童委員などと連携を図っていきたい。高校生の生涯学習については、公民館で実務的な講座などを主催したいと考えている。

委員：小・中学校は、家庭教育学級については、第1学年だけ必須になっているため、予算がついているが、学年が変わるごとに予算が大幅に削減される。講師を招いたり、見学に行ったりする場合には費用が発生してしまう。自己負担が少しでも減るように考えていただきたい。

副委員長：各委員から寄せられた意見を踏まえて、市民のためになるような「家庭教育の推進」を考えていただきたい。

委員：「年齢にとらわれずにいきいきと暮らすための生涯学習活動」として「目標指数」が

ある。この根拠は何か。

事務局：印西市基本計画に準じている。

委員：「目標指数」の「公民館及び中央駅前地域交流館定期利用団体数」というのは、そこに届けているサークル数なのか。また「公民館及び中央駅前地域交流館の年間利用者数」の根拠を伺いたい。

事務局：「公民館及び中央駅前地域交流館定期利用団体数」はサークル数だが、「公民館及び中央駅前地域交流館の年間利用者数」はサークルに限らず、講座などで会場を借りた人数である。

委員：利用団体はいろいろな施設を利用しているので、詳しく書いてほしい。また、利用団体目標を見ると、現状が225団体で、目標が230団体とある。計画期間の4年間に各公民館で1団体ずつ増加という目標は低過ぎないか。

事務局：公民館によっては、高齢化が顕著なため、ゼロのところもある。そうしたことを加味した数字である。ニュータウンの公民館は飽和状態だが、中央公民館や印旛地区の公民館では段階的に増やせると思うが、高齢化や交通の利便性の問題もある。場所を変えてサークル活動をしていただければ、団体数として増える可能性はある。

委員：高齢化や交通事業の問題もあるため、公民館によって確かに格差がある。コーディネータと相談しながら、会員の高齢化などで危機を迎えているサークルの人員を増やすなどの方策が出来れば良い。

委員：高齢化により活動ができなくなっているサークルもある。一方、地域交流館は人気があるため、予約を取るのが大変な状況だ。サークルに参加しやすいように、交通環境を整えることができれば、サークルや参加者も増える。

委員：公民館の運営に携わっている。3月22日に公民館の運営員の会議がある。そこでいまの意見を交えて提言したい。

副委員長：「目標指数」を決めるのは難しい問題だが、もう一度、検討していただきたい。

委員：「高等教育機関等との連携協力」の具体的なことを教えてほしい。

また、「ボランティアの育成や地域で活動する個人・団体のネットワーク化の推進に努める」とあるが、市民アカデミーの卒業生の活用も取り入れたらどうか。

事務局：東京電機大学、順天堂大学などとの連携を考えている。東京電機大学は子ども向けの講座、順天堂大学は親子で体を動かす講座を実施しているが、今後拡充する必要があると思う。

ボランティア育成として、市民アカデミーの卒業生を有効に活用していくことも大事に考えている。

企業については竹中工務店の研究施設などでの学習があるが、今後も学習講座を働きかけていきたい。また、東京電機大学は、学生はいなくなるが研究施設としては存続するため、生涯学習の場として力を入れていきたい。

委員：社会貢献としていろいろな取り組みをやっている企業があるため、社員に市民アカデミーに講師として来ていただくこともできる。企業の協力についても、具体的に記載してほしい。

事務局：市内に限らず、学びのネットワークとして可能性が広がればと考えている。

委員：大学との連携だが、25年前に地域社会との連携について印西市の市長などと話し合ったことがある。翌年に市民大学講座を始めたが1年で終わった。当時と今は事情が違うが、市民のレベルアップのための生涯学習という方向性を明確にすることで、上手くいくと考える。大学や企業との連携は、相互の意識疎通が明瞭でないとうまくいかない。企業は大企業にこだわることはない。市内の中小企業の経営者、農業従事者、専門職などの方を講師にするなども検討してほしい。

副委員長：30ページは「第2節 基本目標」となっているが、「分野別目標」に変更した方が分かりやすい。

17ページは、生涯学習と文化芸術と一緒に記載されている。ほかのところは生涯学習とスポーツと一緒にしているが、ここだけ生涯学習と文化芸術と一緒にしているので精査して統一してほしい。せっかく4つの分野に分けているのに、生涯学習とスポーツがなぜ一緒なのか疑問を感じている。

28、29ページの基本方針のタイトルが他のページより大きいというのはおかしいと思う。見せ方やタイトルをもう一度整理してほしい。

事務局：今後、精査していく。

議事 (2) その他について

委員：先日、小・中学校在籍の子どもと保護者に対するアンケート調査があったが、計画のアンケートと比較すると、結果にすごく差があると感じた。学校評価のアンケートは記名式のため、思っているすべてを書けなかったと思われる。計画のアンケートから、こういう意見があるということを、学校に示してもいいか。

事務局：アンケート結果は学校担当部署に報告している。各学校にも届くはずである。

副委員長：傍聴されている方のご意見も伺いたい。

傍聴者：交通の便が悪いことを解消することが生涯学習の活性化につながると感じた。貧困のため、バイトをせざるを得ない高校生もいるということだが、高校生の時から自分たちの働く権利を学ぶことが大事だと思った。

傍聴者：家庭環境の問題で、父親は話に出ていなかった。仕事を持っている父親が出て来られるような環境を作ってもいいと思った。

<その他>

◇ご意見シートは、会議後1週間以内に各委員から事務局への提出を依頼

◇今後は策定委員会を経て、第4回の検討委員会を5月に開催する予定。

以上

使用した資料

- 印西市教育振興基本計画（第2次素案）
- 意見シート（2回目）

- 印西市教育振興基本計画に係るアンケート調査報告書（自由意見）
- 印西市教育振興基本計画（第2次素案）説明資料

平成28年度第3回印西市教育振興基本計画生涯学習編検討委員会の会議録は、事実と相違ないので、当会は、これを承認する。

平成29年4月14日

印西市教育振興基本計画生涯学習編検討委員会

署名委員 伊藤 明生